

2009 年度実施

(2010 年 4 月入学)

立命館大学大学院テクノロジー・マネジメント研究科

入学試験問題

# 小論文

試 験 時 間
10 時 30 分 ~ 12 時

2010 年 3 月 6 日

## [注意事項]

- ① 指示があるまで問題を見ないこと
- ② 試験終了後は問題用紙を提出すること

入試問題 (2010.03.06 実施)

1. 専有可能性とは何か。「イノベーションの収益化」の観点から、論じなさい。 (10 点)
2. 開発効率の低下は、どのようなことを観察することで把握できると言っているか、論じなさい。(10 点)
3. 著者は、「開発効率の低下」を引き起こしている原因のひとつとして「イノベーション課題の変化」を挙げている。それは、どのようなことで、開発効率の低下にどのように関連しているのか、具体的に論じなさい。 (15 点)
4. 日本企業の研究開発プロセスは「ストローパイプライン型」であると著者は述べている。
  - ① それはどのようなものか。どのような特徴があるのか。
  - ② デメリットは何か。 (15 点)
5. ベストプラクティス事例として取り上げられているキャノンは、プリンタ分野でどのように利益獲得をしてきたか、説明しなさい。 (10 点)
6. インテルの MPU 事業はイノベーションの収益化のベストプラクティス事例として取り上げられている。イノベーションの収益化においてこの事例が示す重要なポイントは何だと著者は論じているか。 (10 点)
7. 製品寿命を引き延ばすためのイノベーションが必ずしも収益に結びつくわけでないこと、または、短寿命でも収益をもたらすことがあること、どちらか一方を選んで、例を挙げて説明しなさい。 (10 点)
8. 時計産業において、日本企業がクォーツ技術というイノベーションを起こしても安定した収益確保ができずに苦戦しているメカニズムについて説明しなさい。 (10 点)
9. 以下のキーワードの中から 2 つ選び、おのおのについて説明しなさい。 (5 点×2)
  - ①生産性のジレンマ
  - ②脱成熟化
  - ③破壊的技術
  - ④S 字カーブ
  - ⑤研究開発の「死の谷」